



明けまして

おめでとございます

みんなで作ろう

支え合つまち

いばら



社協事務局だより

【地域福祉功労者】

長年、地域福祉活動に貢献された方が表彰されました。

◎安佐北区社会福祉協議会会長表彰

鳴谷 婦美子様

(井原地区社会福祉協議会評議員)

【活動報告】

残念ながら、今期の重要な行事予定であった、敬老祝賀会及び一人暮らしの高齢者の集いとも、コロナウイルス感染防止の観点より、中止いたしました。新年に入り、

1月29日(土) 福祉研修会 を開催予定で、準備しておりましたが、オミクロン株の感染拡大による「まん延防止等重点措置」の適用発令の為、中止しました。残念な思いです。(1月8日現在) 今後、

2月 あんしんネット見守り支援者の集い、
3月 いきいきサロン情報交換会 を予定しておりますが、オミクロン株の感染縮小次第です。

【ふれあいの場つくり団体の活動報告】

*つくしの会

12月12日(日) 追甲法要・忘年会

場所 老人集会所

*えくぼの会

9月下旬 会員にコロナ対策商品配布

*母子会

12月8日(水) ミカン狩り

場所 瀬戸田 生口島

【車椅子の更新について】

当社協は、足腰の不自由な方とか、急に怪我や病気の為必要とされる方に、車椅子を所有しております。この度、ご厚意により、新しく軽い外出用に更新しておりますので、お気軽にご利用下さい。

(連絡先 飯田まで 8288-2473)

【ボランティアバンク登録者の新規募集のお知らせ】

見出しの件について、1年前にも見直しの結果、登録者が、十数名になったことを、お知らせしましたが、コロナ禍により、十分な募集活動が出来ていないのが現状です。志ある方、是非連絡をお願いいたします。

(連絡先 飯田まで 8288-2473)



井原地区社会福祉協議会に対し、左記の皆様から、多額のご寄付をいただきました。

皆様の地域福祉に対するご理解と御協力に厚くお礼を申し上げます。ここに報告いたします。

(令和3年8月～12月)

8月 和田 祥子様 (故和田 敦雄様)

9月 中山 正行様 (故中山 敏雄様)

10月 下水 清様 (故下水 孝枝様)

新年の挨拶



井原地区 社会福祉協議会

会長 末田 良陽

本年が、皆様にとつて幸せな素晴らしい年になりますよう、心から祈念申し上げます。

平素より皆様には、井原地区社協の活動に対して、ご理解と御協力を賜り、深く感謝申し上げます。

昨年・一昨年とコロナウイルス禍の影響で、社協の大切な行事である「敬老祝賀会」・「一人暮らしの高齢者の集い」を実施することができず、大変残念な思いをしてきました。11月に入つてコロナの感染状況も落ち着いてきましたので、本年こそは、これらの行事が出来るのでは期待しています。ただ、年末に感染力の強い新型の「オミクロン株」が、日本にも入つてきて、私達の日常生活に影響が出るのではないかと心配しております。

ところで、昨年10月には、久しぶりに広島県出身の総理大臣「岸田内閣総理大臣」が誕生しました。地元としては、コロナ対策・経済対策・外交問題など、難しいかじ取りを任されて大変だろうと思いますが、国民が安心して幸せな生活ができる世の中になるよう頑張つてほしいと願います。

さて、地区社協の上部団体である「広島市社協」・「安佐北区社協」は、平成15年4月1日に施行した「福祉のまちづくり総合推進事業要綱」を廃止して、平成29年3月1日に「新・福祉のまちづくり総合推

進事業要綱」を発表しました。その目的は、「みんなで作る ささえあいのまち」をスローガンに地区社協が中心になつて福祉のまちづくりを計画的・体系的に推進することです。この事業は次の3つの事業から構成されています。

(1) 近隣ミニネットワークづくり推進事業

(小地域における見守り・支えあい活動)

「気がかりな人の孤立防止、及び変化の早期発見をし、住民の視点で気がかりな人を多様な方法で見守ることにより、気に掛け合い、声を掛け合えるような地域づくり」を進める。また、これに伴う見守り協力者の養成や関係機関・団体による支援のネットワークづくりを行う取り組み。

(2) ふれあいいいきサロン設置推進事業

(地域住民のふれあいの場づくり)

「住民同士が顔を合わせて、なじみの関係を作つていく場づくり」を目的として、高齢者や障がい者、児童等が身近な地域で気軽に参加できるサロンの実施や立ち上げ支援、さまざまなサロンの把握、サロン同士のネットワークづくりを行う取り組み。

(3) 地区ボランティア活動推進事業

(地域住民の参加・支えあい活動)

「たすけあいのある地域づくり、困ったときに相談できる地区社協づくり」を目的として、高齢者や障がい者、児童等、地域で支援を必要とする人々たちへの支援活動を行うための福祉意識の啓発、住民ニーズの把握

と活動場面の開拓・提供並びに担い手の発掘・養成・登録・活動調整等を行う取り組み。

井原社協としては、(話・輪・和 三つの「わ」で支えあうまち「いばら」)をスローガンに、平成29年・24年の2年間かけて4名の「福祉のまちづくりプラン」策定委員が、延10回の会合を重ねて慎重審議した結果、プランを策定しました。このプランを第1次5カ年計画として、平成29年4月1日より、事業を推進してきたところです。令和2年度には「福祉のまちづくりプラン」第1次5カ年計画を見直して、第2次5カ年計画としてスタートしております。

今般、広島市社協・安佐北区社協は、各地区社協が取り組む事業を支援するために、新たに「地域団体連携支援基金事業費助成金制度」を設けました。この制度は、50万円を上限として地区社協と町内会自治会等の地域団体(コミュニティ協)が、連携して行う事業を支援するものです。今後、井原地区社協は、コミュニティ協と協議・連携するなか、この制度を利用してまちづくりを推進していければと考えています。

井原大橋から下流を望む



追伸

地区社協活動拠点活性化推進支援事業について

付け加えまして、井原地区社会福祉協議会として、今後取り組みしなければならない大きな課題の1つとして、地区社協活動拠点活性化推進支援事業があります。この事業の目的は、地区社協活動拠点（地区社協事務局機能）を活性化させ、住民同士がつながりあい、主体的な活動を広げ、様々な課題を解決していけるまちづくりを目指していくことです。その為に、拠点となる場所を確保し、週2〜3日有償の常駐スタッフを置いて、住民の相談にのり、問題解決に当たるといふものです。

常駐スタッフの具体的な役割は

- (1) 地域住民の交流や困りごとのキャッチを行う。
- (2) 困りごとの解決に向けた地域の関係団体との連絡調整や関係機関へのつなぎを行う。
- (3) 地区社協事務の効率化を図るため、地区社協の事務作業を一元的に行う。というものです。

この事業を推進するために、広島市社協は3年間助成金を支給し、常駐スタッフへの謝礼金や拠点となる場所の維持管理費等の必要経費を支援致します。そして、令和7年度までに全ての地区社協が拠点を設置し、この事業に取り組むよう要望しています。この事業を推進するには、いくつもの大きな課題があります。関係団体と連携して、今後検討していきたいと考えています。また広く皆様のご意見をいただければと思っております。

これからも皆様の要望に沿い、少しでも住み良い安心のまちづくりに努力して参ります。ご理解とご支援引き続きよろしくお願いいたします。

まん延防止等重点措置。

新型コロナウイルス感染症の拡大をふせぐための緊急措置。知事が市区町村単位などに範囲を絞り、飲食店に営業時間短縮や酒類提供を要請・命令する権限を持つ。今回は、午後8時まで酒類の提供停止。イベント開催等は、別途、取り決めるを行う。

(中国新聞より抜粋)



【編集後記】

新しい年を迎えて、皆様こころ新たにされたことと思います。ここ2年間は、コロナ・コロナで振り回され、社協活動は、ままならない状態でした。一方、地区内に目を向けると、昨年は様々なできごとがありました。やまこようばし広場の開設。「ようこそその家」の完成です。そして、4年前の大震災の三篠川の補修工事等が、継続して大胆に行われて、様々に変化のあった1年だった気がします。

現在、井原は、令和3年9月現在、五九八世帯で、1039人の人が住み、高齢化率は、5.3%です。これは、4年前の平成29年9月と比較すると、世帯で二五世帯減少・人口で120人減少で高齢化率は、4.6%の増加となっています。この過疎化が進むなかで、今、重要なことは、やはり、地域の近所の結びつき・助け合いだとも思います。一人暮らしの方も多くなっています。そして高齢者の方も・・・。一方、子供は少なくなっています。

地域のひとりひとりの方の背負うものが、大きくまた多くなってきましたが、広島市街から1時間以内で、鉄道も通り、パラグライダーが飛び、鮎がとれる自然豊かなこんなまちって、そんなに、ないとおもいますよ！

今年も、一人一人が、隣・近所の方にちよつと気持ちを向けて前向きに、声かけていきましょう。きつと、いいことあります！

《話・輪・和 三つの「わ」で支え合うまち「いばら」》

今回は、井原で、長年 独自に、福祉活動・

地域活動に取り組み、昨年9月、障がい者グループホーム「ようこそその家」を開設された、「NPO 法人夢の広場ようこそ」代表の池岡洋子さんから、お話しを聞きました。

① 「ようこそ」の歩みについて

平成20年4月、任意団体「夢のひろば」を立ち上げました。白木町に住む障がいをもつ子達とその親とで、「白木町に障がい者の施設を作りたい！」という願いを持って、活動を始めました。この思いを地域の方に知っていただくために、月1回の朝市開催を計画。寂れていく井原市駅前、人の集まる場・交流の場を作ること、もう一つの目的として、野菜販売やフリーマーケットブースを設け、お茶を飲み談笑できるテーブル席を用意しての開催でした。草と石ころだらけの広場でしたが、予想以上に、地域の方に来店していたとくこと



広場の草取りと朝市の写真

が出来、朝市をスタートしました。5月には、途絶えていた

「さかな市」をなんとか再現しようと考え、

「さかな市もどき」と名付けた朝市も毎年開催していきまし



ようこそその家とハロウィン開催

平成21年5月に、「NPO 法人夢の広場ようこそ」を設立。広島市の助成金を受け、厨房をつくることのでき、平成21年秋には、「まぐれ食堂」を始めました。買い物をする店や食堂もない、不便で生活が大変なこの地域の障がい者や高齢者の何かお手伝いできないかと考え、始めた事業です。その後も、様々なイベントを開催していきました。

平成27年、「これまでの活動から、もう一歩進んだ地域の支援を始めたい。」という思いから、「協同労働ひねもすようこそ」を立ち上げました。障がい者の日中支援や、地域サロンの開催、困りごとの支援という3つの柱の事業を行っています。

地域活動を行いながら、いつも根底にあったものは、開始当初から、障がい者施設の設立でした。そして、ようやくついに、令和3年9月 夢の広場に「ようこそその家」という障がい者のグループホームのオープンにこぎつけることが出来ました。13年

来の夢が叶ったのです。地域の多くの方々にご協力をいただき、支えていただき、ここまで来ることができました。

② 今後の活動について

現在、コロナの終息のめどは立たず、食堂もイベント開催も難しい状況です。けれども、いつの日にかまた、皆様とワイワイと賑やかに食事や談笑ができる日が来ることを願って、地道に活動を続けていきます。少子高齢社会のど真ん中に暮らし、たくさんの課題があることを知りました。微力ながらも、お手伝いできることはないかと試行錯誤しながら、活動していきたくないと考えています。

「ようこそその家」ができたからといって、終着駅ではありません。オープンから4ヶ月、少しずつ落ち着いてきています。利用者さんが、安定した楽しい生活を送れるようこれからもサポートしていきます。終の住処ができることを願っている仲間が、まだまだいます。2棟目・3棟目の建設や、働く場である作業所を作ること、次なる夢として前進して参ります。

上井原から神之倉山を望む

